

「情報量の増分が u の100年確率水文量は90%の上限確率をもって v 以内におさまる。ここで、 u, v は第3表のようである。」

本稿は手法の提案に重点をおいたものであった。今後は、従来の方法による確率水文量との比較等を通じて、本法の実用性について検討したいと考えている。

謝 辞

本研究では、建設省北陸地方建設局千曲川工事事務所が収集したデータの一部を使用させて頂いた。データ処理では高橋浩一君(姉大本組, 当時信州大学工学部学生)に御協力頂いた。記して謝意を表する。

文 献

- Benson, M.A., 1968 : Uniform flood-Frequency estimating methods for federal agencies, Water Resour. Res., Vol. 4, No. 5, 891-908.
 建設省北陸地方建設局千曲川工事事務所, 1976 : 千曲川・犀川河川要覧(雨量資料編).
 Phien, H.N., 1987 : A review of methods of parameter estimation for the extreme value

type-1 distribution, Jr. of Hydr., Vol. 90, 251-268.

寒川典昭・荒木正夫・上原 剛・草刈智一, 1990 : 2母数対数正規分布の推定母数の信頼性評価, 水工学論文集, Vol. 34, 1-6.

_____, _____, _____, _____, 1991 : ガンベル分布の推定母数の信頼性評価, 天気, 第38巻, 第8号, 3-6.

_____, _____, 渡辺輝彦, 1986 : 確率分布の推定母数の不確定性評価法, 土木学会論文集, No. 375/II-6, 133-141.

宝 馨・高棹琢馬, 1988 : 水文頻度解析における確率分布モデルの評価規準, 土木学会論文集, No. 393/II-9, 151-160.

_____, _____, 清水 章, 1989 : 極値分布の母数推定法の比較評価, 京都大学防災研究所年報, No. 32, B-2, 455-469.

高棹琢馬・宝 馨・_____, 1988 : 水文頻度解析モデルの母数推定法と確率水文量の変動性—3母数対数正規分布について—, 京都大学防災研究所年報, No. 31, B-2, 287-296.

竹内邦良, 1980 : 不確実性の定式化と分析—これからの動向から対処法も含めて—, 水理・水工計画, 土木学会誌, Vol. 65, No. 9, 16-20.

国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

国際学術交流事業(天気32巻5号参照)の一環として、国際学術研究集会への出席の旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

記

1. 対象の集会

A : 1993年6月1日～11月30日および

B : 1993年12月1日～1993年5月31日

の期間外国で開かれる国際学術研究集会

2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

3. 募集人員

若干名

4. 補助金額

開催地域を考慮し最高15万円程度

5. 応募手続

所定の申請書類(日本気象学会事務局備付)を期日までに国際学術交流委員会(〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内日本気象学会気付)に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日 : A 1993年2月28日

B 1993年8月31日

6. 補助金受領者の選考・義務

当該集会終了後30日以内に委員会に報告書を提出する。